

第十一話＜画家への道＞

”H”は“U”の必殺技“BKビーム”で敢え無く消え去り、物語の中の少年の思いも長谷川初範氏演じるY先生の助けによって心癒されていきます。しかしわたしの中に棲みはじめた思いは消えるどころかますますもがいておりました。

昼は父のシロアリ消毒を手伝い床下に潜り、夜は深夜喫茶のコックのアルバイトを始めました。

行き場を求めてあらゆる表現手段を探りました。深夜喫茶が終わるとそのまま山の奥深くに分け入って発声練習を始め、ギターを求めピアノも買いました。ついにはライブハウスに勤めシンガー・ソングライターの真似事をしていると「客より音痴な人は歌わないで」と言われて自分が音痴だと気づいてあきらめました。

そうして数年後の24歳の頃より、夜中未明に突然ことばやイメージが現れ出しました。それはいつもの、思い浮かんだ物事をメモるときの感じとは明らかに違う感じでした。それは、めくるめく鮮やかに形を伴った姿で現れ、それを記すまでは消えてくれませんでした。

そんな出来事が二～三ヶ月続いたでしょうか。気がつけばメモは小さな文字でびっしりとノート数冊に及んでおりその頃には、ばらばらに記されたことばのつながりが一つのビジョンとなって見えておりました。

それは、誰もが望む誰もが幸せな世界を実現できる答えだと思えました。
と同時に、それが自我が目覚めてぶち当たるぶ厚い巨大な壁の正体だと感じました。

人種や肌の色や言葉や習慣や文化や宗教や性の違いで、争い殺し合う現実。そしてその根本に居座った、”愛するものから愛されない、愛したいのに愛せない・・・それが自分である”という苦しみの根本的な問題を解きほぐすための方法でした。

なぜ、人種や肌の色や言葉や価値観の違いができてしまったのだ。なぜ、男と女が分かれてしまったのか？この違いを乗り越えるために芸術や宗教は存在しているのではないのか。なのになぜ世界には、苦しみが充ち満ちているのだ！？

しかし……この見えない壁を乗り越えることができるのも、間違いなく他の何かではない。
人間の内にしか見いだすことはできないのだ！！

わたしはそれから、その散り散りに記されたノートの言葉を拾い集めつなぎ合わせてゆきました。

そして半年後それは一冊の冊子になっておりました。わたしのこの経験は、この後も絵画のインスピレーションを起こす作業へと引き継いでゆきました。

しかし、このとき出来上がった冊子の内容を理解してくれる人は、両親を始め友人の誰一人も居ませんでした。それどころか親しい友人からは「お前の思いを押しつけないでくれ、余計に苦しくなるから！」と言われました。

『なんということだ、自分が苦しみの中から一生懸命に探し出したものは、親しい友人にさえ拒絶されてしまうものにしかなかった……』

その落胆は激しいものでした。

しかしその状況の中でわたしははっきりとした目標も得ました。

『その文章に現したかった内容を生涯をかけて現してゆこう』と決意しました。
今思えば、この自分の中にあった思いの破片をつなぎ合わせて出来上がった冊子の中身が、初めて発した拙い“ことば”であったのだと思います。

わたしは、表現の世界の扉を知らずに押し開けておりました。

END

<参考までに>

- ・NBC 長崎放送《窓をあけて九州》2004 年 10 月 10 日放送 “ウルトラマンになれなかった男”
- ・“THE IVORY APE” で検索して「AND SOON THE ……… S o-net ブログ」をクリックするとその先にはあらら…見つけちゃいました！ゴリラのアップショットがみられると思います。